

2020年3月期通期決算説明会（電話会議）の主な質疑応答

Q：決算説明資料の説明でも、無線は必需品なので受注活動自体は順調だという話があったが、工場の一時的な問題を抜きにして、無線、JKPI、ヘルスケア、DXなどBtoBビジネスの受注活動、また新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）の終息後に向けた事業拡大の見通しのようなものはあるか？

A：PS分野の無線に関しては、必需品ということで、米国のロックダウン中でも出荷が継続でき、米国子会社のEFジョンソンで扱っている製品については、大きな影響もなく受注は順調だと見ている。その他の端末については、鉄道関係などで例年と比較して確定受注に至るのが遅れ気味で、一部端末が部品の欠品により生産ができていないこともあって、4月に入って影響が発生し始めている。国内中心のJKPIについても同様で、4月に入り、受注済みの工事案件の延期要請等が入ってきている。DXビジネス事業については、MS&AD社向けのドライブレコーダーのビジネスはそれほど影響を受けていない。インドネシアのGrab社向けビジネスは、売上規模が小さいため大きな影響ではないが、新型コロナ影響により、人が外に出ないということで厳しい状況になっている。こうした一時的な影響も受けているが、BtoBビジネスは新型コロナによる影響収束後には、設備の置き換え需要や新規需要は戻ってくると考えているので、一時的に販売が減ったとしても、長い目で見れば取り戻せると考えている。これから緊急対策を実施する予定だが、こうしたBtoBビジネスに対しては、投資や開発は計画通り実行していく予定である。

Q：今の状況で逆に好調に推移しているビジネスはあるのか？

A：外出の自粛が続く中、エンタテインメントのストリーミングビジネスが伸びると予想していたが、正直期待していたほど伸びていない印象。また5G関連では、映像デバイス事業の光通信素子があるが、現時点で世界経済の先行きが不透明であることもあって、新型コロナによる影響収束後、すぐ需要が急拡大することはないと認識している。

Q：新型コロナが前期のAM分野の営業利益に与えた影響が15億円とのこと。アフターに与えた影響の方が大きいという認識だが、OEMへの影響はあったのか？

A：ロックダウンにより3月に発売予定だった米国の新商品が一切出荷できなかつた等、アフターへの影響が一番大きかった。OEMについては、欧州自動車メーカー向けのスピーカーなどを生産している子会社が、工場の操業ストップにより出荷に影響が出た。国内用品（ディーラーオプション）についても、消費低迷により車の販売が減ったことで、当社の出荷も減ったという影響はあった。

Q：決算説明資料の中にWithコロナ、Afterコロナで事業収益構造の改革を図るという説明があるが、現状で課題を抱えていると認識している事業があるのか。現時点でどういった計画が取られているのか、見えているものがあれば教えてほしい。

A：現時点では正直判断が難しい。AM、PS、MSの3事業の中で、PSについては、長い目で見れば必ず需要は回復するとみている。ただAMアフターやMSのBtoCについては、新型コロナによる影響収束後の消費者の需要がどうなるのかこれから2~3カ月の状況を見て判断していきたい。

Q：3Q決算の時に構造改革を発表し、今期9億円効果が発現するという話があったが、予定通り発現するのか。また、決算と同時に減損を発表しているが、それに伴う今期業績への効果はどれくらいか。今期もある程度の事業構造改革の費用計上は認識しておいた方が良いのか。

A：3Q決算時に発表した構造改革については予定通り3月末までに完了しており、9億円については4月以降予定通り発現すると考えている。また、今回発表した減損に伴う今期業績への効果としては、償却費ベースで4~5億の改善になると見込んでいる。今期の事業構造改革費用については、現時点では無いということになるが、新型コロ

ナによる影響がどこまで続くか、after コロナの事業構造がどうなるかによっては、新たな構造改革費用が発生する可能性はあるかもしれない。

Q：AMの用品の新規受注による効果や、PSの受注積み上げによる効果などで、今期はもともと続伸するという見方だったと思うが、新型コロナの影響によって、そのあたりの見方はどう変わってくるのか。

A：AMについては、これまで「20年3月期が底で、用品の新規の受注は取れているが、実績が上がるのが21年3月期になる」という説明をしてきた。この発売については予定通りと聞いており、今期の第2四半期から出荷が始まると見ているが、車の販売台数がどこまで回復するかによって、当社の業績は左右される。またPSの無線については、米国の受注残も順調に積み上がっており、製品供給の問題や、相手方の受け入れの問題など期初は影響があるかもしれないが、年間ではほぼ予定通りに推移すると見ている。

Q：21年3月期の減価償却費や研究開発費、設備投資の方向性についてはどのように考えればいいのか。設備投資で何か金額として大きなものがあれば教えてほしい。

A：新型コロナの影響を受ける前では、OEMの用品の新規獲得案件により、21年3月期の償却費は若干増え、開発投資についてはほぼ前期並みと考えていた。現状は、BtoBであるAM用品やPSなどについてはほぼ予定通り投資を進めていき、BtoCについては、どれだけ消費が回復してくるかによって、新商品のサイクルを1回飛ばして投資を削減するといったことも考えていく。一律で減らすのではなく、回復の早いもの、大きな影響を受けないものについては予定通り、大きな影響を受けそうなものについては、大幅な削減を行うといったメリハリをつけて進めていきたい。

Q：今期の為替の影響、感応度はどれくらいなのか？

A：為替については、21年3月期については米ドル、ユーロ、主要通貨を予約でほぼ押さえており、（期中の為替変動によって）売上については影響は出るが、損益については大きな影響は出ない見込み。感応度は、1円の円高で米ドルは+2億円、ユーロは△1億円の営業利益への影響。社内計画レートは、米ドルが109円、ユーロ120円。

Q：国内のドライブレコーダーについて、販売店の売上がかなり深刻な減り方をしているが、当社もほぼ同じような動きをしていると考えてよいのか？

A：4月のAMアフターは前年比でかなり落としている状況。販売店での当社シェアは若干上がっていると見ているが、それでも20%近くは台数ベースで落ちているという認識。

Q：今期の業績予想を開示する時期は、1Qが終わったところというイメージか？

A：現段階では1Q決算発表と同じくらいのタイミングになると考えている。

以上